

4-2-3. 薩南諸島竹島における春期と夏期の鳥類調査

榮村 奈緒子・村中 智明

Bird surveys during spring and summer of Takeshima Island, the Satsunan Islands

EMURA Naoko¹ and MURANAKA Tomoaki²

1: 鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域農学系

2: 京都大学生態学研究センター

1: Faculty of Agriculture, Kagoshima University

2: Center for Ecological Research, Kyoto University

要旨

竹島における鳥類の生息状況の季節変化を明らかにすることを目的として、我々は2019年よりラインセンサス法による調査を行っている。5月と8月に行った調査の結果では、鳥類の出現種数と種構成に明瞭な違いが見られた。

はじめに

薩南諸島の島々には希少種を含む多くの鳥類が生息しており、この種構成は島ごとに異なる。生息する鳥類のうちアカヒゲ *Luscinia komadori* などは、繁殖期と越冬期で異なる地域を利用することが知られている（関ら 2011）。また、薩南諸島の島々は春と秋に、渡りの中継地として多くの鳥類が滞在する（関ら 2011）。したがって、島ごとに鳥類の季節別の生息状況を把握することは、これらの種を保全する上で重要な情報になる。竹島（面積 4.2 km²）は薩南諸島の北部に位置し、名前の通り島の大部分がリュウキュウチク *Pleioblastus linearis* でおおわれている。この島における鳥類記録は限られており、定量的な調査は行われていない（鹿児島県自然愛護協会 1979、鹿児島県 1987）。そこで、本研究ではラインセンサス法による調査から、竹島における鳥類の生息状況の季節変化を明らかにすることを目的とした。調査は2019年より開始し、継続中であるため、ここでは5月と8月の結果の一部を報告する。

方法

竹島には2019年5月3日、4日、5日と8月17、18日に滞在した。ラインセンサスを行うために、島内にルート1（1.95 km）とルート2（1.60 km）を設定した（図1）。ルート1では5月4日と8月18日、ルート2では5月5日に、時速約2 kmで往復を歩き、ルートの片側50 m、両側合わせて100 mの範囲内に出現した鳥類の種名と数を記録した。これらのセンサスは強風ではない晴れた日に行い、日出から30分以内に開始した。ルートの範囲外、およびラインセンサス以外の時間に出現した鳥類についても、種名と数を記録した。

結果と考察

Bird surveys during spring and summer of Takeshima Island, the Satsunan Islands

5月と8月の滞在期間中、合計28種の鳥類が観察された（ハト目1種、カツオドリ目1種、ペリカン目4種、タカ目4種、チドリ目3種、スズメ目15種）。このうち、5月は26種で、8月の5種よりも多くの種数が観察された。ラインセンサスでも同様に、5月（ルート1：14種、ルート2：7種）では8月（4種）よりも多くの種数が出現した。5月の両ルートにおいて、ウグイスの出現数が最も多かった（ルート1：7.18個体/km、ルート2：9.38個体/km：数値は往復の平均出現数）。その他、ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*（図2）、ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*、メジロ *Zosterops japonicus*、キジバト *Streptopelia orientalis*、ツバメ *Hirundo rustica* などが出現した。一方、8月のセンサスでは、ハシブトガラスの出現数が最も多かった（2.31個体/km）。その他は、アオサギ *Ardea cinerea*、ヒヨドリ、およびキセキレイ *Motacilla cinerea* であり、5月に最も多く出現したウグイスはセンサスだけでなく滞在中も確認されなかった。このように、5月と8月では、観察された鳥類の種構成や出現数に違いがみられた。

出現種数が5月で多く、8月で少なかった原因は、調査を行った5月上旬は鳥類の春の渡りと繁殖の時期が重なること、8月は鳥類の繁殖終了時期であることが影響していると考えられる。5月には渡り鳥として、キマユホオジロ *Emberiza chrysophrys* やコサメビタキ *Muscicapa dauurica* などが観察された。竹島で繁殖していると推測されるウグイスなどは、繁殖終了後に他の地域へ移動しているのかもしれない。今後、冬期に同様の調査を行うことで、この島で越冬する種の状況について明らかにする予定である。

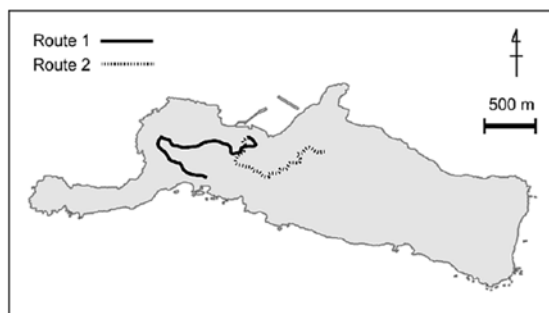


図1. 竹島で設定したルートの位置



図2. ヒヨドリ（2019年5月5日撮影）

引用文献

- 鹿児島県保健環境部環境管理課 1987. 鹿児島県の野鳥. 99頁. 鹿児島県公害防止協会, 鹿児島島.
 鹿児島県自然愛護協会 1979. 市町村別, 鳥類分布調査報告書（鹿児島市郡, 指宿地区）, 52頁. 鹿児島.
 関伸一・所崎聡・溝口文男・高木慎介・仲村昇・ファーガス クリスタル 2011. トカラ列島の鳥類相. 森林総合研究所研究報告, 10: 183-229.

謝辞

文献収集の際に、（一財）鹿児島県環境技術協会の外園九十九様にお世話になりました。